

6月4日、釧路市社会福祉協議会に車椅子を贈呈した模様が「釧路新聞」の記事で掲載されました。



三洋電機洋友会が釧路市社会福祉協議会に車いすを寄贈

三洋電機「洋友会」

道内で収集のプルタブ役立て

市社協に車いす寄贈

三洋電機の定年退職者でつくる全国組織「洋友会」北海道地区会(尾田昌啓会長)は4日、釧路市社会福祉協議会に車いす1台を寄贈した。同地区会が独自に手掛けてきた道内で収集したプルタブを道内の自治体で役立てる活動が、初めて結実した。

(山本雅之)

三洋電機洋友会は、全国を抱えるグループで、北海道地区には166人が入

会している。プルタブを集めて車いすを贈る取り組みは、社会貢献運動の一環として2007年から開始し8年間で、札幌市や仙台市、福岡市などに合計12台を贈った。

北海道地区会は、会員が継続してプルタブ収集に努めてきた半面、せつかく集めたプルタブが、大阪府まで運ぶ経費で相殺されていた。

同地区会は14年から、善意で集まったプルタブを、最大限生かすため、全道各地で収集したプルタブを札幌市でひとまとめにして、道内の公共施設に贈る方法に着手し、わずか1年で目標量の約800口を集めた。第1号の車いすの贈呈先は、釧路、帯広地区(会

員8人の参加率の高さと、収集量の多さが評価され、釧路市社会福祉協議会に決まった。

式典は、市総合福祉センターで行われ、尾田会長が市社協の藤田正一常務理事に車いすを贈った。尾田会

長は「当初、2年で1台の寄贈を目指していたが、多くの人の協力で、早々と目標を達成できた。今回、形にできたことを励みに、一層頑張っていきたい」と笑顔で話した。市社協は、一般利用のほか、児童、生徒の総合学習でも活用する考えで、藤田常務理事は「社会福祉事業は、地道な活動によって支えられ、成り立っている。たいへんありがたい」と感謝の気持ちを伝えた。